

とびラーの 声から

見えないモノを
どうしたらみることが
できるのだろう？
その不思議のナゾを解明
したくて参加しました。
(山本)

言葉を通して視覚障害
者の方と一緒に紡ぐ鑑賞の
世界に魅せられて参加しま
した。ともに鑑賞する楽し
さをもっと広げていたら
いいなと思っています。
(黒田)

コミュニケー
ションを通じて参加者
それぞれの観点が交わり、
その場その場で変化してい
く鑑賞体験であることを知
って「面白そう」と思っ
たのがきっかけです。
(小高)

視覚障害者の方と
そうでない方がともに
美術作品の鑑賞をする場を
作り、鑑賞会の実施経験も
多いと伺い、疑問に答えても
らえる貴重な機会でもあり
と思い、参加しました。
(小野寺)

眼の不自由な人に
説明してあげる鑑賞で
はなく一緒にイメージや
感想を表現しながら自分
を表現し共有できる鑑賞
を試みたかった。
(山田)

視覚障害の有無に
かかわらず、誰もが違う
ものの見方や考え方を持っ
ています。異なる価値観を持
った人たちが集まって言葉
にしながらかつて鑑賞する
ことに魅力を感じました。
(大政)

見えない人と
作品の前で語りあって
いると一人では気付かなか
ったものが 次々見えて
きて面白かったり 感動
したり・・・そんな経験が
ホントに楽しい。
(大内)

参加してみたら
本当に本当に楽しかった
のです。美術館とひとりで
作り出す この新しいたく
さんの楽しさを「ひとりでも
多くのかたに知ってもら
いたい！」と思いました。
(林)



子どもの頃から
美術館が好きです。
そんな美術館が誰にと
っても身近で、多様な価値
観を共有できる、新しい
「出会いの場所」にな
るといいなと思っています。
(小野田)

「目の見えない世界」
とは？一体どんな・・・と、
立ち止まって考えるき
っかけになったのは、海
外で、手に取った一冊の
絵本から。「The Black
Book of Colors」(真黒な
紙に点字+英語の文)色
や形が、見えなくても…
見えないからこそ、コト
バで広がる世界が美し
かった。
(松崎)

普段なかなか美術作品
を見る機会のない方にも
鑑賞体験を楽しんでいただ
きたいと思い、この企画
に参加致しました。また
大学で美術史を勉強し、
「作品を言語化する」作
業を日常的に行っていた
私には、見えていない方
にも作品を隅々まで理
解していただける自信も
ありました。けれど、そ
れは私の押しつけがまし
い思い込みにすぎなか
った。詳細に説明しき
る必要はなく、むしろ
何か分からず想像力が
掻き立てられる作品
ほど「鑑賞」しがいがある
のだという、視覚障
がい者の方の言葉にハ
ッとさせられました。
(櫛原)

私は映像作家をして
いるのですが、いつか
目の見えない人でも
楽しむことができる映
像作品をつくってみたい
と思ったのが 参加
したきっかけです。
(石井)

協力：「視覚障害者
とつくる美術鑑賞
ワークショップ」
ウェブサイト↓
<http://kansho-ws.jugem.jp>

とびらプロジェクトとは…

人と作品、人と人、人と場所をつな
ぎ、美術館に集まる多様な人々
とのコミュニケーションを大切
にし、そこから生まれる新し
い価値を社会に届けること
を「アートを紹介したコ
ミュニティ」を育ていく活
動を主体的に行っています。
その担い手となっているのが…
アート・コミュニケータ
(とびラー)です。



とびラボ「と・も・に」企画

とびラーが

みえない人と いっしょに 絵を見てみました

視覚障害者との鑑賞研究会レポート

とびラボとは…

とびラーのなかで
誰かの「こんなこと
やりたい」というアイ
デアに仲間が集まり
集まったメンバー全
員でできるプロジェ
クトを立ち上げる場
です

「と・も・に」とは…

「あなたと」「私と」「みんなと」の「と」
「あなたも」「私も」「みんなも」の「も」
それに「いっしょに」の「に」

「と」「も」「に」は、それだけでは意味
を持たない助詞です。けれど
「あなたと」「わたしも」「いっしょに」
というように 他のことばとくっつくと
動き出すような 何かがはじまるよう
なことばになります。

そして「と」「も」「に」をならべると
友に(友だちになろう) 共に(いっしょにやろう)
のように聞こえてきます。

あなたと わたしと みんなと いっしょに
障害のある人も ない人も いっしょに
アートをたのしむことをめざして集
まったグループが「と・も・に」です。

ことばでみる

見えるってなんだろう？

そうだったんだ！

とびらプロジェクト



1

準備

準備から
ふりかえりまで鑑賞会に参加して新しく発見したこと
面白かったこと、感じたこと、疑問に
思ったことを共有しふりかえりました。

4

鑑賞を終えて

作品を見ているつもりでも見ていなかったのが、言葉におきかえて説明しようと思って見た時に、初めて客観的にものがある見えてきて整理できたように思います。

一生懸命説明する会だと最初は思っていたけれど、そうではなくて、絵をみることでみなさんと気持ちや意識を共有するのが楽しいということがわかりました。

同じものを鑑賞しても、見え方や受けとめ方視点が違う声を聞いたのがよかった。

解説するということではなく、日常や身近なものにおきかえて伝えるのが新鮮で面白いと思いました。

それぞれ思ったこと、感じたことをその人のことばで伝えてもらっていいのです。わからなければ、こんな感じですか？と返せば良いので…。

自分のことばが、どんなイメージになるのかということをはずさず考えていました。

いっしょに話をしながらみるということは作品と自分たちをつなぐコトだと思い、非常に面白かったです。

いっしょに見ている人が どう感じているのかって、すごく重要な情報だと思います。好き、きらいも含めて。

見える人が絵を鑑賞する時にもそこにある情報を総ては意識していないですね。自動的に切り取ったり、取捨選択していますよね。

「これは言葉にできない」とか、「わからない」ということを伝えるのも大切な共有だと思います。

脳の中の眠っている言葉が、立ち上がってくる感じがしました。

参加者同士のコミュニケーションも大切だと思っていました。

ただただ楽しかったです！いつもならコミュニケーションによって障害になるはずの違いが、対話をしながら作品鑑賞をするときには、その差がより多くあった方が面白い鑑賞になるのだということが実感できました。

2

鑑賞会

まずはロビーで
自己紹介

3

展示会場へ
(福田美蘭展)

作品を鑑賞するグループ構成は
視覚障害者のナビゲーター 2名：ナ
晴眼者のサブナビゲーター 1名：サ
参加とびうー（鑑賞者）6～7名：ト
1作品に20分かけて
4つの作品を鑑賞しました。

みんなで「リンゴとオレンジ」という作品を見た時のダイアログを紹介します。

- ナ セザンヌの絵は知っていますか？
サ えーと、わたしはわからない。知りません。
ナ 大御所なんですよ。
ト1 そうです。ものすごく有名な人なんですけど…
サ どれくらい有名な人ですかね？
ト2 スポーツに例えたら…わかります？
ナ セザンヌ級に有名な人って誰ですか？
ト1 わたし、野球で言えば長嶋さんだと思う。
ト1 いや、長嶋ではないと思う。
ト3 えーっ…
(一同笑う)

- ト1 ちょっと、方向を変えた人だから…なんだろ…
サ 野茂。
ト1 野茂。ああ（まわりからも賛同の声）
ナ それは、いい感じかもしれないですね。
ト1 こう、今までのことから、概念の流れから、ちがうところへ…っていうことをやったという…
ト1 うん、でも西洋絵画史でいったら、真ん中ですよ？
ト4 道の真ん中を歩いているっていうか。
ト4 道の人はみんなインスパイアされているところはありますよね？
サ なんかの「父」なんですか？
ト4 近代絵画の父
サ それぐらいすごい人っていう…。
ト1 へへへ（笑い）
ナ わかりました。

山水画みたい…！

山水画って
具体的に
どういうもの
ですか？わかんないって
いうのも大事な
情報だったりする…

寒そうな感じで…

空は
どんな色
ですか？うすく黄色
がかった…美術に
詳しくなくても
OK！たよれば…
セザンヌって
野球選手だと
だれ？

長嶋！

うん…

ノモ！

見えない人と
絵を見るのって
…どう思う？

何度もミーティングを重ねながら
他団体のワークショップに参加したり
他でのとりくみの情報を集めました。
そしてとびうーが視覚障害者と一緒に
言葉をつかって美術鑑賞をする会を
実施することにしました。

たのしそう！

一度 やって
みましょうか他の美術館の
情報も集めたら
いろいろ
わかるかな？みんな
体験したら
どんな感じ？ちょっと
不安かも…その場で
感じたことを
何でも
言っていんだね輪になって
声をだして
ください今日のこの会を
たのしみにして
きました見えない人と
歩くのって
はじめてです
ちょっと
緊張する
キーンと
してきます展示会場まで歩きながら
さりげない会話を重ねて
ウォーミングアップ！